

患者さんと中央市民病院をつなぐ情報誌

SHIOKAZE Magazine

し / お / か / ぜ / 通 / 信

Vol.
59

2025
New Year



- | | | | |
|------|-------------|-----|---------------------|
| P1-2 | 病院長新年のごあいさつ | P8 | 中央市民病院100周年記念市民公開講座 |
| P3-6 | 薬剤部インタビュー | P9 | 神戸医療産業都市 一般公開 参加報告 |
| P7 | IBDセンター設立 | P10 | ご寄付のお願い |



2025年 新年のごあいさつ

謹 んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中の
当院へのご支援に深く感謝し、新しい年における皆さまのご健康とご多幸をお祈りいたします。

昨年当院は神戸市民に支えられて開設100周年を迎えました。本年は次世紀へ向かう最初の年に当たります。次の時代にはどんな展開が私たちを待ち構えているのか、たいへん興味深く思われます。信頼を寄せていただく市民と共に、ひとつひとつの困難を克服してゆきたいと念じます。

断 らない救命救急医療は当院診療の一丁目一番地です。様々な患者の要請に応える体制をさらに磨き、病院全体の病床を最大限に有効活用できるよう、私たちは病床管理のデジタル化を推進してきました。昨年4月に稼働した全国初の大規模Volume (病床) Control (管理) Centerは、電子カルテや勤怠管理システムから継続的に情報を取り出して解析し、院内のどこに活用が可能なベッドがあるのか、その活用は妥当なのかを「見える化」することに成功しました。VCCの導入によって、救急・外来・病棟の一元的な運用が実現したため、旧地域医療推進センターは患者ひとりひとりに入院から退院まで一貫した支援を提供する「患者総合支援センター」に生まれ変わりました。病床運用の可視化と効率化は、働きやすい職場の実現にも貢献してくれています。



救命救急医療に次いで当院が果たす役割は、高度医療の提供です。優れた医療技術を高い安全域で遂行するために、チーム医療の更なる推進、情報の共有、無理のない働き方、仮説への挑戦を病院全体で実践しています。手術部門には外国製2台に加え3台目となる国産手術支援ロボットhinotori™を導入しました。手術支援ロボットは外科医に取って代わるものではありませんが、術者の手先を安定させ手術過程を繊細に可視化することで、出血などの合併症を最小限にし、患者への負担を確実に減らしています。画像診断部門には3台目となる3テスラMRI（核磁気共鳴診断装置）が導入され、微小病変や機能画像の描出に革新がもたらされました。新薬を含む多くの治験や臨床研究が監査部門の審査を経て実施されており、年間で400編を超える国際論文を輩出して神戸市医療産業都市中核病院の役割を果たしています。

さて当院の宝としては、「市民からの信頼」と「集積された医療人材」に加えて、これまで長年に亘って蓄積された膨大な「診療実績の記録」があります。どのような特徴を有するひとが特異な病気を発症したのか、だれが薬物に対して副反応を示したのかなど、診療記録に尋ねてみたい疑問でいっぱいです。一方診療記録の構造は想像以上に複雑であり、鋭い仮説や多大な労力があって漸く情報に辿り着けるのが実情でした。それが今日のIT革命とりわけAI

を活用した大型データベースの検索技術により可能となりつつあります。それは私たち医療者だけではなく神戸市民にとっても秘められた金鉱だと思えます。医療記録は個人情報でありますから了解なく医療者が扱うことはできません。個人情報の扱い方を具体的に協議して約束を確認し、許された範囲で行うことが必要です。市民の多くがその価値を理解し協力してもらえることができれば扉は開き、当院は新たな鉱脈を活用して未来を切り開く場となります。これまで30年に及ぶ医療産業都市ポートアイランドに築かれた研究施設やスーパーコンピュータそれに数百の医療ベンチャーが待ち望んできた貴重な医療情報を提供・活用する新たな病院機能を解き放つ時が近づいていると感じています。

本年も皆さまのご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。



神戸市立医療センター中央市民病院 病院長

木原康樹

「薬あるところに薬剤師あり」を胸に サイエンスの視点で 薬物療法を提供

安定した薬の提供と、安全で有効な薬物治療を支える薬剤師は
患者さんの健康や命を守るために、毎日努力しています。
表には見えにくい業務のことや患者さんへの思いなどを聞きました。



薬剤部
部長

室井
延之

むろい
のぶゆき

当院には総勢約80人の薬剤師がおり、調剤室だけでなく救命救急センターや入院前準備センターなどすべての部門に常駐し、患者さんへのお薬の説明から副作用のモニタリングまで継続した薬学的管理を実践しています。さらには、退院後の患者さんの薬物治療を保険薬局へつなぐ役割も担っています。

近年は調剤室業務のデジタル化が進み、患者さんとより深く関われる仕事広がってきました。また、経験豊富な先輩薬剤師が若手薬剤師を育成する正規職員の新人教育制度やレジデント制度を導入し、「共に学ぶ」という環境下で成長を実感しながら、誇りと責任を持って仕事に取り組んでいます。

私たちの使命は、安心してご満足いただけるお薬や薬物治療を患者さんに提供すること。お薬に関するご質問やご相談があれば、気軽にお声がけください。



Q. 調剤室ではどのような仕事を
しているのですか？

2 700種類以上ある治療に必要なお薬を、安定して備蓄し、正確に患者さんへ届ける仕事を中心です。最近はお薬の取り揃え等をロボットに移行して業務の効率化を図り、新薬の情報収集や患者さんの支援等にも注力しています。

ひらの
セントラル 平野さん



Q. 患者さんと接する際に
心がけていることはありますか？

入 院前準備センターの薬剤師の役割は、入院予定の患者さんから常備薬の情報を聞き、入院後の治療の円滑化を図ること。そのなかで患者さんがお薬の不安や悩みを話しやすいよう、優しい言葉がけを意識しています。

ふじわら
入院前準備センター 藤原さん

Q. どのような時に
仕事のやりがいを
感じますか？



救 命救急病棟では、多職種が連携して患者さんの早期回復を支援しています。最善の薬物治療についてチーム内で話し合ったり、看護師からの薬剤に関する質問に答えたりする時に、薬剤師の存在意義とやりがいを実感します。

ますもと
救命救急病棟 榎本さん



Q.

なぜ病院薬剤師になろうと思ったのですか？

父

を病気で亡くした時に看護師さんの優しさに救われ、病院職員に憧れるようになり、得意な化学を活かして薬剤師の道に進みました。今は抗がん薬の調製や投与量の確認などに携わり、患者さんの人生や治療に寄り添っています。

よしだ
化学療法センター 吉田さん



Q.

長く仕事に従事できる環境は整っていますか？

子

育て世代が抱える業務の悩みや問題を解決する「子育てワーキンググループ」を発足し、育児と仕事両立できる環境づくりに取り組んでいます。男性職員も育児休暇を取得しやすく、ライフステージに応じた働き方が可能です。

おおと
主幹 大音さん

Q.

レジデントに
応募した理由と
その魅力をお聞
きたいです。



救

命救急で活躍したいと思い、救急医療全国1位である当院のレジデントに応募しました。2年間のプログラムでは多様な部署の薬剤師業務を経験し、短期間で幅広いスキルを修得できるのが魅力。先輩に学び、夢を叶えたいです。

たかもり
レジデント 高森さん

子育てへの理解が深い仲間
に支えられ、ママになっても
自分らしい働き方を継続中。

第一子出産後に職場復帰し、3歳の子どもを育てながら時短勤務で働いています。仕事と育児のバランスに難しさを感じながらも、毎日全力で好きな仕事に打ち込めるのは、同僚や上司がいつも快く私の時間外の業務をフォローしてくれるからこそ。

「子育てワーキンググループ」の手厚いサポートにも心から感謝しています。



TDM
平山さん
ひらやま



IBDセンターを設立しました

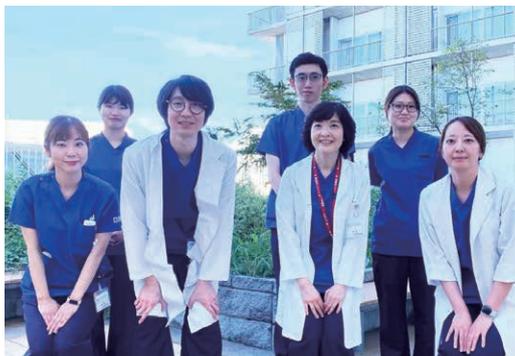
炎症性腸疾患 (inflammatory bowel disease: IBD) は主に、潰瘍性大腸炎とクローン病を指し、近年、本邦でも患者数が著明に増加しています。

下痢、血便、腹痛が続く疾患で、上下部消化管内視鏡検査、カプセル内視鏡などを用いて診断します。また当院ではダブルバルーン内視鏡を用いて、クローン病の小腸狭窄に対して内視鏡的バルーン拡張術を行っています。

IBDは生涯つきあっていく病気ですが、この数年で続々と新規薬剤が承認され、治療の選択肢が増えました。

これを使い分けることによって大半の患者さんは入院することなく、外来で治療をすすめるようになっていきます。

当院ではIBD治療を充実させるため、このたびIBDセンターを設立しました。IBD専門医が中心となって診療を行い、一人一人に最適な治療を考えます。



IBD合併症の関節症状や皮膚症状については、膠原病・リウマチ内科や皮膚科と緊密に連携します。また外来患者さんについても、新規治療や自己注射の開始時にはIBD担当薬剤師が薬剤指導を行っています。また管理栄養士による栄養指導も積極的に行います。

＼ 上記の症状でお悩みの方は、ぜひ当院の下記外来をご予約ください。 ＼

● 外来日と担当医

曜日：毎週火曜日 (消化器内科 井上医師) ・金曜日 (消化器内科 森久医師)

● 予約方法

かかりつけ医から事前にインターネット予約またはFAX予約をとっていただください。(詳細は当院ホームページをご参照ください) すでに他院で治療を開始されている患者さんは、これまでの治療歴が大事な情報となりますので、必ず予約をとってお越しくください。



カプセル内視鏡



ダブルバルーン内視鏡

市民公開講座を開催します

100周年記念

神戸市立医療センター中央市民病院は開設100周年を記念し、市民公開講座を開催します。

講座では当院の木原病院長より皆様にご挨拶を行い、循環器内科と整形外科の医師より身近な病気のお話しと診療科の取り組みをご紹介します。また特別講演として元ラグビー日本代表の大畑大介氏をお招きし、病気やケガとの向き合い方などを講師の人生経験を交えて患者さん目線でお話しいただきます。

日時 2025年2月15日(土)14:00~16:00 (開場13:15~)

場所 神戸新聞松方ホール
神戸市中央区東川崎町1丁目5-7



参加費無料

400名
先着順



プログラム

- ・院長挨拶
- ・講演1 <循環器内科>
演者：谷口 智彦 医長
演題名：長生きの秘訣、教えます ～心臓病のお話～
- ・講演2 <整形外科>
演者：竹内 久貴 医長
演題名：つらい痛みとさようなら 手・肘・肩の健康ケア講座
- ・休憩
- ・記念講演 演者：大畑 大介氏 (元ラグビー日本代表)

●応募方法 WEB又はFAXで受け付けます。

お申込みフォーム <https://forms.gle/kNQEBRaC6xYUmk437>



FAXでお申込みされる場合はこちらから「FAX申込書」をダウンロードしてお申込み下さい。
<https://chuo.kcho.jp/news/227191/>

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

お問
合せ

患者総合支援センター (平日9時~17時)

TEL: 078-302-4321 / FAX: 078-302-4424 / Mail: renkei@kcho.jp

「神戸医療産業都市 一般公開」



ストロークン

神戸医療産業都市では、年に一度、医療産業都市内にある研究機関や大学、病院、企業が、一斉に施設を公開する市民向けのイベントを開催しています。

当院も11月2日(土)「みんなで学ぼう!脳卒中!!」の企画で参加し多くの方々にお越しいただきました。



脳神経外科の医師が糸結びを子供たちにレクチャー

脳神経内科の尾原医師より「脳卒中の予防と治療」をテーマに講演があり、質疑応答も行われ、脳卒中の予防と早期受診の重要性について理解を深めることができました。

体験コーナーでは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリセラピスト、医療ソーシャルワーカーなど多職種が健康相談、血圧測定、カテーテルや糸結びなどの手術、調剤体験、リハビリ体験、脳卒中相談窓口など、様々な企画を開催しました。



お子さんも興味深々



ストロークンもやってきました

オリジナルキャラクターのストロークンもやって来て、記念撮影を行い、実際に見て触れて楽しく学んでいただけるイベントになりました。



ストロークンオリジナルグッズも
プレゼントしました!

参加者からは「現場の方と直接話せる貴重な機会だった」「体験コーナーが楽しかった」といった声が寄せられました。当院では今後も、市民向けの患者教室等のイベントを定期的で開催していく予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

ご寄付のお願い

当院はこれからも地域の皆様へより良質で安全な医療を提供していきたいと考えています。皆様には寄付という形で当院の運営に共に携わっていただきたいと思っておりますので、金額の多寡にかかわらずご支援を賜りますようお願い申し上げます。

きばら やすき
神戸市立医療センター中央市民病院 病院長 木原 康樹

ご寄附の流れ

1. ご寄附のお申込み

「寄付申込書」に必要事項をご記入いただき、下記の宛先へご提出ください（郵送・FAX・持参どれでも可）。寄付金の納付先をご連絡させていただきます。また、インターネットでのお申し込みも可能です。

「現金」、「銀行振込み」、「クレジットカード」のいずれかで可能です。また、遺贈によるご寄付も承っております。



詳細はこちら▲

2. 寄付受納書のご送付

寄付受納書は、口座への入金を確認後に発行させていただきます。

インターネットからクレジットカード決済をお申込みの場合、クレジットカード会社から当機構への入金を確認した日付以降となり、通常2～3か月を要しますので、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ

神戸市立医療センター中央市民病院事務局経営企画課
〒650-0047 神戸市中央区港島南町2丁目1番地の1

TEL:078-302-4321
FAX:078-302-7537
E-mail:kifu@kcho.jp

ご寄付をいただいた皆様

(令和6年8月～令和6年11月)

多くの励ましやご支援をありがとうございました。

ご寄付をいただきました方のお名前を、感謝の気持ちとともにここに掲載させていただきます。

寺澤 俊哉 様
椿原 成治 様
中澤 健一郎 様

田中 良子 様
樂前 靖子 様

藤川 敏子 様
高木 すみ江 様

巖 初枝 様
大槻 千代 様

小川 泰子 様
ラップジェフトマス 様

株式会社 ボンド商会 様
はまなすの会 太田直美 様

一般財団法人神戸万国医療財団 様

神戸キワニスクラブ 様

(順不同掲載)

寄付金で購入いたしました



ヘパフィルター



外来用の椅子

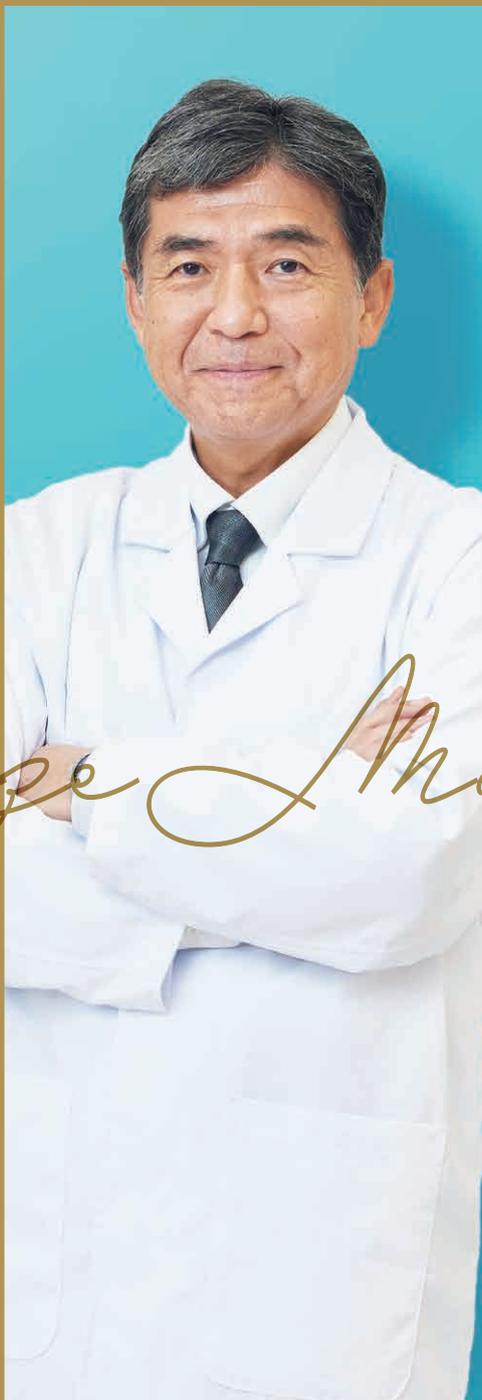


地方独立行政法人 神戸市民病院機構
神戸市立医療センター中央市民病院
KOBE CITY HOSPITAL ORGANIZATION

〒650-0047 神戸市中央区港島南町2丁目1-1
TEL: 078-302-4321

http://chuo.kcho.jp





Shiohage Magazine

